

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
初等図画工作科指導法			17737	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
花房 雅剛	選択	2	公立小学校教員			

### 授業の到達目標

小学校学習指導要領にある図画工作科の低・中・高学年それぞれの目標を理解し、教材研究や模擬授業等とおして指導上必要な知識と技術を習得し、授業実践できる力を身に付けることである。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を養う。

### 授業の概要

講義やディスカッション、模擬授業、教材研究をおして図画工作科の指導内容や指導方法、評価等について学ぶ。鑑賞の分野では、視聴覚機材及び博物館、美術館等を活用し作品鑑賞のねらい等を学習する。

### 授業計画

1. 学習指導要領にある図画工作科の目標等と役割
2. 図画工作科の年間計画、授業設計、指導案の作り方
3. 思考の継続化を図る図画工作科としての横断的学習の授業設計
4. 図画工作科と他教科との領域の関係を理解した横断的学習の教材研究と模擬授業
5. 図画工作科としての言語活動と評価
6. 絵画の表現形式
7. 絵画表現に関する教材研究と模擬授業
8. 版画の種類と仕組み、用具の安全な使い方
9. 版画の表現技法に関する指導方法と授業改善の視点
10. 様々な材料、用具を使った立体・工作の表現
11. 立体・工作に関する用具の安全な使用方法
12. 造形遊びに関する用具や材料の使用方法和場所の活用方法
13. 美術館を活用した効果的な鑑賞指導と授業設計
14. 美術館での効果的な鑑賞指導の在り方と模擬授業
15. まとめと定期テスト

### 授業の方法

講義と作品制作（教材研究）、美術館での作品鑑賞を中心とする。

### 準備学修

Webで参照すること。

### 課題・評価方法

平常点70% 定期試験30%

### 欠席について

欠席1回について3点減点、遅刻1回について1点減点

### テキスト

文部科学省『小学校学習指導要領解説 図画工作編』

### 参考図書

日本文教出版『図画工作』『ずがこうさく』

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
初等家庭科指導法			17741	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
浅井 由美	選択	2				

### 授業の到達目標

小学校における家庭科教育に必要な実践的指導力を身に付ける。学習指導要領に示された小学校家庭科の目標と内容、その指導上の留意点を理解する。小学校家庭科とその背景となる学問領域との関係を理解し、教材研究に活用することができる。小学校家庭科の学習指導の理論と方法を理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計を行うことができる。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

### 授業の概要

小学校家庭科の目標と内容、家庭科教育のために必要な学習指導の理論と方法、教材研究などを学ぶ。さらに、子どもの発達段階や生活実態を踏まえた、また情報機器及び教材を活用した授業設計と学習指導案の作成を学び、模擬授業を行う。

### 授業計画

1. 小学校家庭科の目標と内容
2. 「家族・家庭生活」「衣食住の生活」に関する指導上の留意点
3. 「消費生活・環境」に関する指導上の留意点
4. 小学校家庭科の評価
5. 「家族・家庭生活」「衣食住の生活」に関する教材研究
6. 「消費生活・環境」に関する教材研究
7. 子どもの発達・生活と家庭科教育
8. 小学校家庭科の施設・設備（情報機器含む）
9. 小学校家庭科の学習指導の理論と方法
10. 小学校家庭科の学習指導計画
11. 小学校家庭科の学習指導案の作成
12. 「家族・家庭生活」「衣食住の生活」の模擬授業
13. 「消費生活・環境」の模擬授業
14. 模擬授業の検討・改善
15. まとめ

### 授業の方法

講義に加えて、ディスカッションと模擬授業をとりいれる。

### 準備学修

Webで参照すること。

### 課題・評価方法

レポートの提出を求め、授業中にフィードバックを行う。平常点30%、定期試験70%

### 欠席について

欠席1回につき3点減点する。

### テキスト

文部科学省『小学校学習指導要領解説 家庭編』東洋館出版

### 参考図書

必要に応じて授業中に指示する。

### 教員連絡先

yumi@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
生徒指導論（進路指導を含む）	教職小		17753	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
花房 雅剛	選択	2	公立小中学校教員			

### 授業の到達目標

小学校における生徒指導体制や指導方法、課題等を理解し、人権尊重の精神を根幹に据えた生徒指導と自己実現を目指す進路指導のあり方を学び、自己指導能力を育む教員としての実践力を身に付けることである。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA(自律)とI(知性)を養う。

### 授業の概要

今日的な生徒指導・進路指導の課題を学校現場の情報や新聞等の資料より把握し、『生徒指導提要』等に基づき児童の内面理解を基盤に据えた生徒指導・進路指導のあり方を考察する。

### 授業計画

1. 生徒指導の意義と目的
2. 教育課程と生徒指導
3. 学校組織としての生徒指導
4. 進路指導・キャリア教育と生徒指導
5. 児童生徒理解を図る方法とその活用
6. 学級担任としての生徒指導
7. 集団指導と個別指導
8. 教育相談の進め方
9. 基本的生活習慣の確立(学校・家庭・地域の役割)
10. 学校と家庭・地域・関係機関の連携
11. 生徒指導に関する法制度
12. 問題行動の未然防止と早期発見
13. いじめと不登校
14. 情報教育と生徒指導
15. まとめと定期テスト

### 授業の方法

講義とディスカッション

### 準備学修

webで参照すること

### 課題・評価方法

平常点30% 定期試験70%

### 欠席について

欠席1回につき3点減点、遅刻1回につき1点減点

### テキスト

文部科学省『生徒指導提要』に基づいた配布資料

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
子どもの保健ⅠB			17762	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
狐塚 善樹	選択	2	小児科医（日本小児科学会小児科専門医）			

### 授業の到達目標

小児科医は「子どもの総合診療医」、「育児・健康支援者」、「子どもの代弁者」などとされて、子どもの疾病だけでなく、子どもの健全な発育を総合的に支援することが必要とされている。これらのことは小児科医に限られたことではなく、子どもに専門的に関わる者に置き換えても共通する部分が多い。子どもの特徴、成長発達、病気の経過、子どもを取り巻く環境の理解などを深める必要がある。そのために以下の項目を理解する。

1. 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解する。
2. 子どもの身体的な発育・発達と保健について理解する。
3. 子どもの心身の健康状態とその把握の方法について理解する。
4. 子どもの疾病とその予防法及び他職種間の連携・協働の下での適切な対応について理解する。

このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を目指す。

### 授業の概要

子どもは大人のミニチュアではないと言われる。子どもを理解する上で総論的な観点から、共通認識としての用語の定義、生物としてのヒト及びその生理、現在の社会環境及び社会制度（統計、各種子育て支援など）、体・情緒のwell-being、それらへの関わり方や役割などを理解する。それらを基礎として各論に進む。子どもの発達は発育段階で異なり、身体発育と生理機能発達、運動機能発達、心の発達が互いに関係し合っている。これらの発達は理論的に説明できることもあり、丸暗記ではない実際に役立つしっかりとした責任ある知識を身につける必要がある。このいわゆる正常発達に基いて現在の子どもの健康状態を把握する。子どもの疾患の病態生理、特徴を理解して、その予防（予防接種、感染対策など）、対応（初期対応、事後対応など）を理解する。以上の知識に基いて、ある時にある子どもをみて、今の状態がどうか、何が必要かを適切に対応でき、また保護者に説明できることを学ぶ。

### 授業計画

1. 子どもの健康と保健の意義 (1) 生命の保持と情緒の安定に係る保健活動の意義と目的
2. 子どもの健康と保健の意義 (2) 健康の概念と健康指標
3. 子どもの健康と保健の意義 (3) 現代社会における子どもの健康に関する現状と課題
4. 子どもの健康と保健の意義 (4) 地域における保健活動と児童虐待防止

5. 子どもの身体発育と生理機能の発達 (1) 身体発育と保健
6. 子どもの身体発育と生理機能の発達 (2) 生理機能の発達と保健
7. 子どもの健康状態の把握 (1) 健康状態の観察
8. 子どもの健康状態の把握 (2) 体調不良等の早期発見
9. 子どもの健康状態の把握 (3) 発育・発達の把握と健康診断(I)
10. 子どもの健康状態の把握 (3) 発育・発達の把握と健康診断(II)
11. 子どもの健康状態の把握 (4) 保護者との情報共有
12. 子どもの疾病の予防及び適切な対応 (1) 主な疾病の特徴(I)
13. 子どもの疾病の予防及び適切な対応 (1) 主な疾病の特徴(II)
14. 子どもの疾病の予防及び適切な対応 (2) 子どもの疾病の予防と適切な対応(I)
15. 子どもの疾病の予防及び適切な対応 (2) 子どもの疾病の予防と適切な対応(II)

### 授業の方法

スライド講義を中心とする。配布資料、参考資料を用い、症例検討も行う。新聞、ネットなどの子どもに関する情報（感染、制度、社会問題など）は常にチェックしておく。

### 準備学修

Webで参照すること。

### 課題・評価方法

- ①課題  
講義内容のまとめ、提示課題、症例検討のレポートの提出（全3回以上）を求め、講義の中でフィードバックを行う。
- ②評価方法について、  
平常点30%、定期試験70%

### 欠席について

講義は前回の内容を理解している事を前提に進めて行くので、連続性が必要で、欠席は減点対象とする。但し、一般的に出席停止（インフルエンザなど）となるものは欠席としない。欠席は3点減点、遅刻は1点減点。

### テキスト

テキストは特定の本は指定しない。基本的には講義内容と配布資料とする。  
参考図書としては、子どもの保健Ⅰ 佐藤益子/中根淳子編著 ななみ書房、子どもの健康と安全 「最新 保育士養成講座」 総括編集委員会/編 全国社会福祉協議会